

ジェネリックに変更してよろしいですか？

ジェネリックって安い薬でしょ？新薬でお願い！



使わないなんてもったいない！ ジェネリック医薬品



ジェネリックは新薬と同じ効きめなのに、自己負担は減りますよ！

ジェネリック（後発医薬品）は、新薬（先発医薬品）の特許期間が過ぎた後に、他の製薬会社から新薬と同じ有効成分を使って作られます。厚生労働省が定める品質基準をクリアして承認を受けているので、有効性や安全性、品質は新薬と同等であるのに、価格は新薬の2～7割と安いのが特徴です。

1年間ではこんなにお得です！ ※医薬品の価格は一例です

高血圧薬（バルサルタン 80mg）の場合

新薬 8,409 円
ジェネリック 2,058 円
自己負担は **6,351 円減!**

アレルギー薬（フェキソフェナジン 塩酸塩錠 60mg）の場合

新薬 10,205 円
ジェネリック 2,803 円
自己負担は **7,402 円減!**

*自己負担3割の場合、薬価のみの比較です（2021年4月現在）。



どうしてそんなに安いのか？！色や形が違うのも気になるけど…



◎安い理由は、開発コストが抑えられるからです

新薬は、発売されるまでの研究開発に多くの時間や費用がかかるので、新薬を開発した製薬会社には、特許の出願により、約20～25年の特許期間が与えられます。一方、ジェネリックは、新薬の特許期間満了後に新薬と同じ有効成分で製造・販売されるお薬です。新薬より開発費用が少なくすむため、価格を抑えられます。

●開発にかかる期間と費用

	開発期間	開発費用
新薬	9～17年	数百億円以上
ジェネリック	3～5年	約1億円

◎効きめや安全性は、国の審査で確認済みです

ジェネリックは新薬と同一の有効成分を同一量含んで作られています。国の厳しい審査で、有効性・安全性・品質が新薬と同等であることが確認されたものだけが販売されています。お薬の形や色、味、添加剤などは変えてもよいことになっているため、見ためや添加剤が異なることがありますが、有効性や安全性に違いはありません。

近年は「オーソライズド・ジェネリック」と呼ばれる、有効成分だけでなく、添加物、製造方法まで新薬と同一のジェネリックが登場しています。

Column

オーソライズド・ジェネリック (AG)

AGは新薬メーカーから許諾を得て製造・販売される、新薬とほぼ同一のジェネリックをいいます。一般的なジェネリックと同様に開発コストが少なくすむため、お薬代が安くなります。

すでに、アレルギー薬のアレグラや血圧降下剤などではAGが発売されています。

本誌に同封の「ジェネリック医薬品希望シール」をご活用ください

本誌に同封の「ジェネリック医薬品希望シール」を保険証や診察券、お薬手帳に貼っておけば、診察時等に「ジェネリックを希望している」旨を申し出なくても意思が伝わります。ぜひご活用ください。



注意 すべての薬にジェネリックがあるわけではありません。また、医師の治療上の方針で、ジェネリックに変えられない場合もあります。